

て山深き故第一此川江大材木多く出る。○中凡この庄川は飛越兩國にて二十瀬計谷々落る。又五ヶ山東西の間、大川筋籠の渡し七ヶ所あり。○中庄川水源の山より、北海まで道程四十四里程あり。

〔越遊行囊抄〕大門川 大河也、半分上船渡、半分下ハ橋ナリ、長三十二間、大門ノ宿ノ前ニアリ、常願寺川ノ末ト云、或ハ庄川トモ云、或人曰、婦負川トハ此川ヲ云ト、藻鹽草ニ婦負川、越中、めひ川のはやきせごとにかゞりさしやそのともをばう川たぢけり

神越後國

神通川は、越中新川郡婦負郡の間に有り、北陸第二の大川也。第一は越後の新潟川也。此川の水源飛州高山東より二川、岩宮川、町野川、又一川は三日市川。流出する奥の谷は城下の坤の方、西崎川。一川出る。此川の中に神通といふ所あり、依之川の名とす。高山より越中富山迄、道程三十二里二町有、高山城下より所々の城下へ各三十里餘あり、右の川々城下の乾の方にて流合。略 中此神通川かくの如く谷々多く流入故、北陸の大川也。

信濃川

〔書言字考節用集一  
乾坤〕筑摩川 信州

〔倭訓栞中編十四〕ちくまがは 萬葉集に千隈川と見ゆ、信濃國佐久郡より出て、凡そ八郡の水をすべて、六町一里四百三十餘里を經て、越の新潟の海に入、よて越の人は信濃川といへり、扶桑略記に、仁和三年七月、信濃國大山頽崩、山河溢流、六郡城壘拂地漂流、牛馬男女流死成丘といへる、此川なるべし、近く寛保二年八月にも此事ありて、水災六郡に涉れり、溺死のもの數千人と云、  
〔西遊行囊抄二ノ三〕筑摩川 布橋アリ、繼橋ナリ、所々ニ橋柱ヲ立テ、長サ一丁許ナリ、川原ノ間廣シ、此川ハ東ヨリ西北へ流れ、大河ナリ、松本ノ城下ノ邊ニテハ梓川ト號シ、水内郡川中島ノ邊ニテハ犀川ト號シ、レヨリ越後へ流出テ、牧野駿河守領ヲ通り、下越後ニテ海ニ入、